

悔し泣きした
レースを機に
「楽しい」が
「本気」になった

BMXレースは1周400mと自転車競技にしては比較的短い距離のコースを走り、トップでゴールラインを通過した選手が勝ちというシンプルなもの。コースには途中、コーナーやジャンプもありますが、レースは約40秒と短い時間で決まります。抜きどころが少なく、スタートでまずトップに立つことも重要。「怖さ」を感じてしまつては、BMXレースで勝つことができません。

そんな男性顔負けのレースの世界で頑張るのが、14歳の永禮美瑠さん。BMXをしていた父・智実さんの影響で2歳から始めました。最初は足が地面に付かず、スタートは智実さんが支えて走り出し、ゴール地点で母・真弓さんが止める、そんな練習を繰り返しました。ちよつとこの頃、三重県桑名市に「GONZO PARK」という練習場がオープン。週末はコーチをしてくれる智実さんと足を運び練習を重ね、4歳からGONZO PARKが主催する草レースに参戦しました。ライバルが少なかったこともあり、草レースで順調に勝利を収めていきました。しかし、



1/20インチのタイヤサイズがBMXの特徴。後輪のみブレーキを備えています
2/ニュージーランドであった世界選手権に出た時のセッケンプレート
3/ユニフォームや車体にはサポートしてくれるスポンサーの名前が書かれています
4/小学3年生の弟の太空くん(右)もジャパンシリーズで競うBMXレーサーです

巻頭特集 BMXレーサー

永禮美瑠さん

20インチの前後輪タイヤで走る競技用自転車「BMX(バイシクルモトクロス)」。
守山区在住の中学生、永禮美瑠さんはBMXレーサーとして国内強化育成選手に指定されるほど将来を嘱望される一人です。ですが、転倒による打撲や骨折などレースに危険はつきもの。女性が敬遠しそうな厳しいレースにチャレンジを続けるその先に、オリンピック出場、そして何よりもBMXレースをもっと多くの人に知ってもらいたいという目標があります。



夢のレースで買った練習用の練習も同様。「転ぶことは何となく」と美瑠さん。

その頃はあくまでも遊びの延長。「お父さんもBMXに乗っているんで、週末は一緒に付いていき遊びに行く感覚でした」と美瑠さん。

転機となったのが小学1年生の草レース。現在もライバル関係が続く、神奈川県の女性レーサーと対戦。その後、世界選手権で優勝を重ねたほどの実力者を前に、美瑠さんは大敗。これまで草レースで勝っていた自信がありました。最終コーナーを曲がった頃には、相手はすでにゴールラインを通過。ストレート一本分、相手に引き離されるといふ大差でした。

レース後は悔しくて泣きじゃくった美瑠さん。智実さんは「勝めるのか、勝つために本気でしつかりやるのかどうする」と話し、「勝つために本気でやる」というのが美瑠さんの答えでした。

どんなスポーツもジュニア世代から本気で競技に取り組む子どもは全国各地にいます。そんな子どもをサポートするために親の支援も不可欠。遠方で行われるレースへの参加、道具の購入やメンテナンスなど、時間や費用面も苦労が絶えません。ですが、この日から家族全員での戦いが始まったのです。

小学4年生の全日本選手権で 悲願のチャンピオンに!

BMXの主要国内レースは大きく2つあります。ひとつが年に二度の全日本選手権。そして各地のコースを転戦してポイントを重ね、1年を通じてのシリーズチャンピオンを決めるジャパンシリーズがあります。勝つために本気で取り組みだした

美瑠さんは、各地で転戦されるジャパンシリーズへ参戦。しかし、ジャパンシリーズでも予選落ちが続き、約2年間決勝レースに進むことができませんでした。

そんな中でも決して諦めず、平日の放課後には矢田川の河川敷で練習を重ねました。アスファルトの

上を走りスタート時に生きた脚力を練習したり、走りづらい草が生い茂る道を走り脚力アップにつなげました。また、週末だけだった練習も、可能な限り平日も桑名のコースに足を運びました。「BMXは特殊な自転車なので、小さい頃から慣れ親しむことが大切なんです。今までは以上にBMXと触れる時間が長くなったことが、とてもプラスになりました」と美瑠さん。

そして迎えた小学4年生での全日本選手権。エントリーした女子4・5年生クラスで優勝。かつて大敗を喫した神奈川県の相手に雪辱を果たすとともに、初めての日本一に輝いたのです。

競技のことを知ってもらおう そのためのオリンピック

国内で結果を出し、日本代表として世界選手権に出場しましたが、世界の舞台ではまだまだ表彰台が遠いレースが続いています。競技人口が少ない日本と違い、BMXはヨーロッパを中心に人気があり、海外の



2012年の全日本選手権でも見事に表彰台の一番高いところに立ちました

競技人口は日本の比ではありません。また、コースを知り尽くした国内レースと違い、世界選手権は事前にコースを走るのはわずか2時間ほど。短時間でコースを把握し運送しなければいけないなど、これまでにない能力が求められます。それでも「海外で戦うことは大きな成長に繋がります」と美瑠さん。中学校では陸上部に所属し体幹トレーニングにも取り組むほか、中学1年生からBMXレースの国内強化育成選手に選ばれ代表としての練習も続いています。

「BMXレースは北京オリンピックから正式種目になりましたが、ロンドンオリンピック

クでは日本選手は誰も出場できなかった。そのため、リオや東京オリンピックに出場できる選手の育成に協会も力を入れています。でも、まだまだ始まったばかり。海外には自転車メーカーがサポートするチームもあるなど、日本も環境を整える必要がありますね」と母親の真弓さん。美瑠さんのひとつの目標がリオよりも先にあるユースオリンピックへの出場。日本人選手最低でも3人で海外レースを戦い、好成績を収めてみんなのポイントを集めたいと、日本人選手が海外で活躍して、みんなに少しでもBMXレースを知ってほしい」と美瑠さん。守山区出身の女性レーサーが、オリンピックの舞台で活躍する日は、そう遠くない未来に違いありません。



美瑠さんはBMXレースをもっと根付かせようと活動しています



数々のコースなど全国各地のコースで練習を重ねています